

平成30年度

えん な
塩那の国有林

—管内概要—



国民の森林・国有林

林野庁 関東森林管理局

塩那森林管理署

〒324-0022 栃木県大田原市宇田川 1787-15

TEL:0287-28-3125 FAX:0287-28-3531

<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/enna/index.html>

※表紙の写真

上：「那須岳」(那須町)

左下：「回顧（みかえり）の滝」(那須塩原市)

右下：「Mt. ジーンズスキー場のゲレンデ内（水仙）」(那須町)

I 塩那地域の国有林の概要

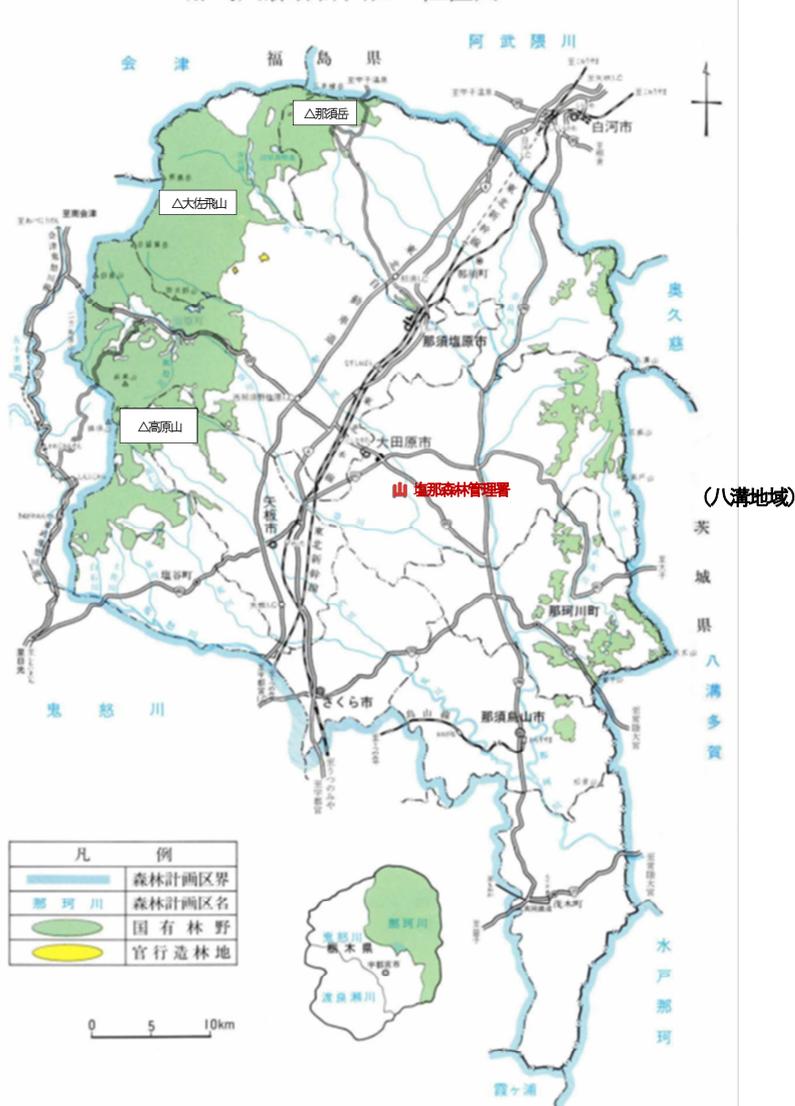
塩那森林管理署は、栃木県北東部の那珂川（なかがわ）源流域（北西～南西部）と八溝山系の中流域（東部）に分布する那珂川森林計画区内の約 41,200ha の国有林の管理経営を担っています。

北西部から南西部にかけての国有林は、深田久弥の記した日本百名山の一つである那須岳（茶臼岳）をはじめ、隣接して大佐飛山（おおさびやま）を中心とする男鹿（おじか）山塊、高原山（釈迦ヶ岳、西平岳等）といった標高 1,900m 程度の山々が連なり、天然林を主体として優れた森林景観が多く見られ、希少な野生動植物が生息・生育するとともに、登山やスキー等のレクリエーションに多くの人々が訪れる地域です。

それに対し、東部の八溝地域や南西部の高原山麓の標高の低い里山地域は肥沃な土壌に恵まれ、スギ・ヒノキを主体とする人工林が広がり、ここから生産される木材は古くから八溝材・高原材のブランド材として市場から高い評価を得ています。

塩那森林管理署では、国有林野の公益的機能の維持増進、林産物の安定供給、国有林野の活用による地域振興への寄与を目標とした管理経営を進めています。

那珂川森林計画区の位置図



森林資源の状況



Ⅱ 公益重視の管理経営の一層の推進

国有林では、国土保全や水源の涵養、地球温暖化の防止等森林に対する国民のニーズの多様化を踏まえ、その重点的に発揮させる機能に応じて ①山地災害防止タイプ、②自然維持タイプ、③森林空間利用タイプ、④快適環境形成タイプ、⑤水源涵養タイプの5タイプに区分して、いわゆる公益林として適切かつ効率的に管理経営を行っています。塩那森林管理署管内の国有林については、水源涵養タイプが最も多く全面積の約50%を占め、次いで自然維持タイプの約25%、森林空間利用タイプの約16%、山地災害防止タイプの約9%となっています。

| 機能類型区分 | 機能類型区分の考え方 | 管理経営の考え方 | 該当面積(ha) |
|-------------|--|---|---|
| ① 山地災害防止タイプ | 山地災害防止及び土壌保全機能の発揮を第一とすべき森林 | 根や表土の保全、下層植生の発達した森林の維持 | 土砂流出・崩壊防備エリア 3,605 〔 気象害防備エリア 0 〕 |
| ② 自然維持タイプ | 原生的な森林生態系や希少な生物の生育・生息する森林など属地的な生物多様性保全機能の発揮を第一とすべき森林 | 良好な自然環境を保持する森林、希少な生物の生育・生息に適した森林の維持 | 10,465 |
| ③ 森林空間利用タイプ | 保健、レクリエーション、文化機能の発揮を第一とすべき森林 | 保健・文化・教育的利用の形態に応じた多様な森林の維持・造成 | 6,460 |
| ④ 快適環境形成タイプ | 快適な環境の形成の機能の発揮を第一とすべき森林 | 汚染物質の高い吸着能力、抵抗性がある樹種から構成される森林の維持 | — |
| ⑤ 水源涵養タイプ | 水源の涵養の機能の発揮を第一とすべき森林 | 人工林の間伐や伐期の長期化、広葉樹の導入による育成複層林への誘導等を推進し、森林資源の有効利用にも配慮 | 20,712 |
| 合 計 | | | 41,242 |



自然維持タイプ



森林空間利用タイプ



水源涵養タイプ

Ⅲ 発揮すべき機能に応じた森林づくり

塩那森林管理署では4つのタイプに応じた機能発揮に向けた森林づくりを進めています。このうち、人工林は管理面積の約3割を占め、その大部分は水源涵養タイプに区分されていますが、間伐等の適切な施業を進め、健全な森林として育成することにより各種機能の発揮を目指しています。さらに、施業を通じて生産された木材の有効利用にも取り組んでいます。このほか、発揮すべき機能に応じ、以下のような多様な森林づくりを進めています。

1 災害に強い山づくり

平成27年9月の関東・東北豪雨により、塩那森林管理署管内の国有林においても大きな被害が発生しました。これら災害からの早期復旧に向け、今年度も治山工事や林道工事に取り組んでいます。また、これらの工事の実施に当たっては間伐材等を活用した型枠を利用するなど、木材の積極的な利用にも努めています。



木製型枠を使った谷止工



木製型枠を使った擁壁工

2 森林とふれあうためのレクリエーションの森の設定

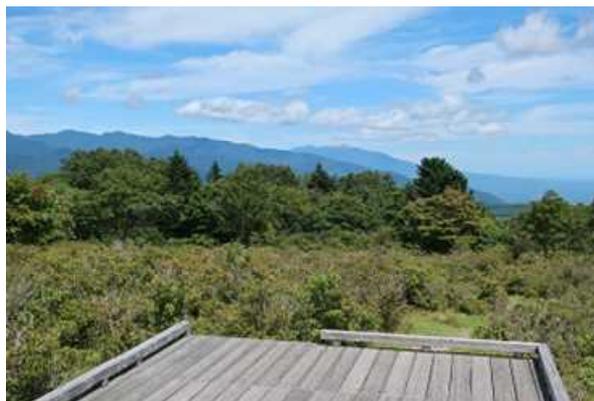
優れた景観を有し、森林浴や自然観察、スキー等の野外スポーツなど人と森林とのふれあいの場を提供するため、塩那森林管理署では、11箇所約4,400haの森林を「レクリエーションの森」として設定し、関係機関等と協力して管理しています。

(1) 自然休養林

| 名称 | 面積 (ha) | 概要 |
|-------|---------|--|
| 奥那須 | 2,368 | 那須連峰（茶臼岳）を中心として山岳地帯から那須街道沿いの貴重な平地の里山林までバラエティに富んだ森林から成り、四季を通じてすぐれた景観を楽しませてくれることから、多くの登山者や一般市民が訪れます。 |
| はっほう方 | 830 | 矢板市の高原山の中腹部の標高 1,000～1,400m に広がる高原台地で、ブナ、ミズナラ、ダケカンバを主体とする天然林、約 50ha に及ぶレンゲツツジ、ヤマツツジの大群落があり 6月の開花時期には多くの人が訪れます。 |



奥那須自然休養林



はっほう
八方自然休養林

(2) 自然観察教育林

| 名 称 | 面積 (ha) | 概 要 |
|---------|---------|---|
| 須 卷 富 士 | 17 | 那須塩原市塩原温泉須巻地区に位置する標高 680m の小峰であり、アカマツ、クリ、コナラ、カエデ等の天然林が良好に保存されており、地元住民や温泉客の方々が自然観察等に利用しています。 |
| 富士山・大沼 | 47 | 那須塩原市新湯温泉の東方に位置する標高 1,184m の新湯富士を中心に、サワラ、ヒバ、モミ、イヌブナ、カエデ等の針広混交林が広がっています。また大沼湖沼群には、モリアオガエルが生息し、ミツガシワ等の湿原植物が見られます。 |
| 前 山 | 11 | 那須塩原市塩釜地区の箒川溪谷沿いの河畔林で、周囲には塩原温泉ビジターセンターを中心とした林間広場や駐車場、公衆トイレが整備されています。林内は樹齢 100 年以上のアカマツ、モミ、ミズナラ等からなる天然林です。 |



富士山・大沼自然観察教育林



須巻富士自然観察教育林

(3) 風景林

| 名称 | 面積 (ha) | 概要 |
|----------------|---------|--|
| ほうきがわ 箒川 溪谷 | 404 | 那須塩原市関谷地区から塩原温泉に至る国道 400 号線に沿って流れる箒川の両岸に位置し、箒川溪谷と両岸のアカマツ、モミ、ブナ、コナラ、ミズナラ、クリ等の天然林からなり、春の新緑や秋の紅葉時期には多くの人々が素晴らしい景観を楽しみに訪れます。 |

(4) 野外スポーツ地域

| 名称 | 面積 (ha) | 概要 |
|---------------|---------|---|
| 那須高原 スキー場 | 18 | 那須連峰（茶臼岳）の東南山麓部に位置し、那須大丸温泉にも隣接しており、冬季は寒冷なため積雪を利用して那須町営スキー場（那須温泉ファミリースキー場）が開設され、多くの家族連れが訪れます。 |
| 中大倉山 スキー場 | 442 | 那須連峰の東に位置する中大倉山の山頂から東斜面一帯に広がるスキー場（マウントジーンズスキー場）で、雪質が良好で積雪も多く、12 月初旬～4 月上旬まで滑走が可能です。また、初夏にはシロヤシオの群生、秋にはドウダンツツジ等の深紅の紅葉が魅力的です。 |
| 明神岳 スキー場 | 253 | 那須塩原市塩原地区の明神岳の西面に広がる変化に富んだ傾斜を有する森林内に北関東最大級のスキー場（ハンターマウンテン塩原スキー場）が整備され、首都圏から多くのスキー客が訪れます。また、夏季にはゲレンデや林地を活用したゆりパークが開園され多くの観光客が訪れます。 |
| 塩原高原 スポーツ林 | 27 | 那須塩原市塩原地区の明神岳スキー場（ハンターマウンテン塩原スキー場）と一体的に駐車場等が整備され利便性の向上に貢献しています。 |
| 箱の森 スポーツ林 | 32 | 那須塩原市塩原温泉の背景に位置し、温泉客等に自然探勝等に利用されているほか、アスレチックや日帰り温泉施設等（箱の森プレイパーク）が整備されており、地域住民や観光客が多く訪れます。 |



明神岳スキー場
（ハンターマウンテン塩原スキー場ゲレンデ内 ゆりパーク）

3 貴重な森林等の保全のための保護林、緑の回廊の設定

国有林野内の森林生態系や希少な野生生物を将来にわたって保護・管理するため、塩那森林管理署では、4箇所 8,907ha を保護林に設定し、さらに保護林を中心として、野生生物の移動経路を確保し生息・生育地の拡大と相互交流を促進するための「緑の回廊」を隣接する森林管理署等と設定し、設定目的に応じた適切な保護・管理を進めています。

(1) 保護林

① 生物群集保護林

| 名称 | 面積 (ha) | 概要 |
|------------------|---------|---|
| おおさびさんち 大佐飛山地 | 8,152 | 那須塩原市に位置し、標高は 900~1,900mに及び、稜線部は亜寒帯~亜高山帯に属しコメツガを主体としてダケカンバやオオシラビソ、ハイマツ等が見られ、大蛇尾川源流部沿いの斜面は冷温帯に属しブナ等を主体とする落葉広葉樹からなる天然林です。 |
| しょうじんさわ 尚仁沢 | 616 | 塩谷町の高原山の東斜面に広がり、この地方では貴重なブナやイヌブナの天然林が広く分布しています。 |



おおさびさんち
大佐飛山地



しょうじんさわ
尚仁沢

② 希少個体群保護林

| 名称 | 面積 (ha) | 概要 |
|----------------------------------|---------|---|
| 那須街道 アカマツ 遺産 | 42 | 観光地那須の玄関である県道 17 号那須高原線の両側に広がる樹齢 100 年程度のアカマツにクリ、コナラが混交する美しい天然林であり、まとまりのある東日本型のアカマツ林の遺伝資源として保護されています。 |
| ながれいしやま おおとうげ 流石山・大峠 ミヤマナラ | 97 | 那須連峰流石山の南側斜面に位置し、冬期の季節風による雪庇の発達により特異な亜高山帯植生からなり、ミヤマナラ群落、ハイマツ群落、ニッコウキスゲなどが優先した雪田草原等が見られます。 |



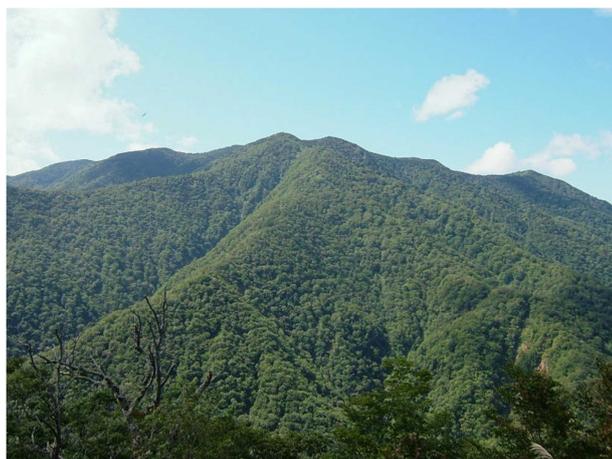
那須街道アカマツ遺伝資源



ながれいしやま おおとうげ
流石山・大峠ミヤマナラ

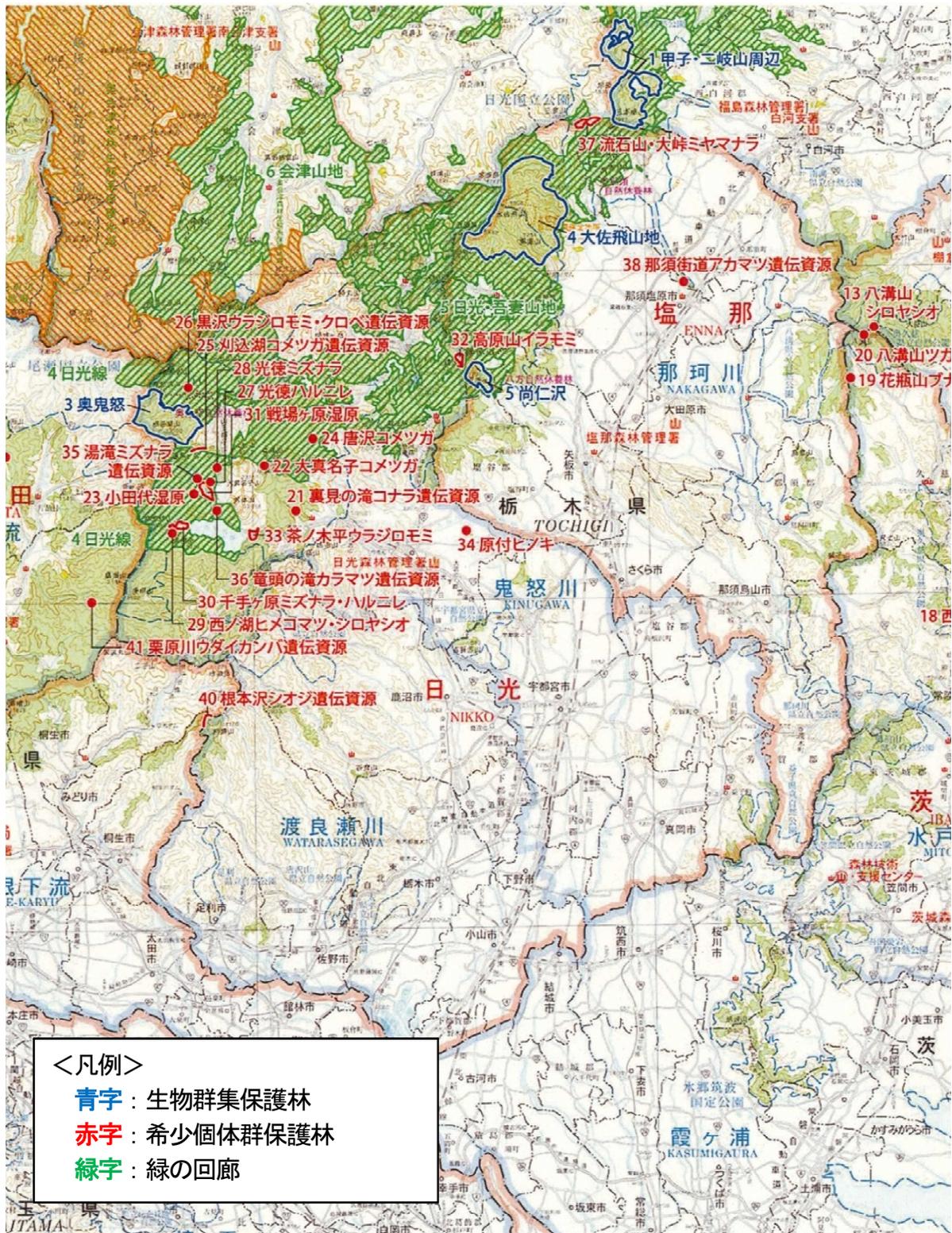
(2) 緑の回廊

| 名称 | 面積 (ha) | 概要 |
|---------------------------------------|---------|---|
| <small>にっこう あずまさんち</small> 日光・吾妻山地 | 18,574 | 当初は「日光・那須塩原緑の回廊」として設定していましたが、平成22年度に、より広範囲な森林の連続性の確保と生物多様性の維持・向上を図るため、福島県内の保護林とも連結する形に面積を拡大し、現在の名称に変更したもので、当署管内では延長26kmが設定されています。(緑の回廊全体としては総延長180km、総面積97,235ha) |



にっこう あずまさんち
日光・吾妻山地 緑の回廊

保護林及び緑の回廊位置図（栃木県内国有林）



IV 林業の成長産業化に向けた取組

公益重視の管理経営を一層推進する中で、地域の林業の成長産業化に貢献するため、間伐等の森林整備を積極的に進め、その結果得られる木材の安定供給、有効利用に取り組んでいるほか、林業の低コスト化等、民有林と様々な分野で連携した取組を進めています。

1 木材の安定供給

森林吸収源対策として、間伐等の森林整備を積極的に行うとともに、主伐時期を迎えた人工林についても循環利用に積極的に取り組んでいます。

塩那森林管理署においても、製材工場等と協定を締結して国有林材を供給する「安定供給システム販売」や民有林とも連携した安定供給システム販売にも積極的に取り組み、森林資源の有効利用・国産材の安定供給に努めています。



高性能林業機械（プロセッサ）による造材作業



フォワーダ(林内運搬車)



トラック運材（安定供給システム販売）



高原・八溝ブランドとして丸太を販売

2 林業の低コスト化の推進

コンテナ苗の積極的な利用、列状間伐の推進、伐採から造林までの一連の工程について高性能林業機械等を活用しながら行う「一貫作業システム」に取り組むなどにより、林業の低コスト化に努めるとともに、これら技術の民有林への普及を進めます。



民有林関係者を参集した列状間伐現地検討会



コンテナ苗の積極的な利用



列状間伐箇所（塩谷町大名沢地区）



ストック・ポイント（作設中）



ストック・ポイント（完成）

3 鳥獣被害対策の推進

栃木県内においても深刻化しているシカ等による食害等の被害軽減に向け、民有林と連携しシカ等の生息情報や被害状況の共有、効率的な被害防止対策の実施等地域一体となった取組を進めています。



剥皮（クマ）被害防止のための保護テープ



ニホンジカによる食害防止用ネット柵



森林管理署員のくくりわな実地研修



シカ電殺器

4 民有林と連携した森林整備

隣接する国有林と民有林が連携して、効率的な路網整備や森林整備を進めるための森林共同施業団地の設定、孤立している民有林と隣接する国有林と一体的に整備するための公益的機能維持増進協定締結に向けた取組を進めています。

V 「国民の森林^{もり}」として開かれた管理経営を目指します

塩那森林管理署では、「国民の森林^{もり}」である国有林を身近に感じてもらえるよう、また、森林・林業への理解を深めていただけるよう、国有林を様々なフィールドとして積極的に活用していただけるよう取り組んでいます。

1 国民参加の森林づくり

自主的な森林整備活動や地球環境保全への貢献などの要望に応えるため、各団体と協定を締結することにより、ボランティア活動のフィールドとして国有林を提供しています。

| 名称 | 団体名 | 協定締結日 | 所在地 | 面積 (ha) | 活動内容 |
|-----------------------|----------------|-----------|-------|---------|--------------------------------|
| 那須ふれあいの森 | 栃木県那須五葉松保存会外1 | H12.3.21 | 那須町 | 209 | 那須ゴヨウマツの分布調査及び保護活動 |
| 那須野ヶ原オオタカの森 | NPO 法人オオタカ保護基金 | H16.4.22 | 那須町 | 79 | 野鳥の生息状況の把握及び営巣地の保護活動 |
| 赤沼～モリアオガエルとサンショウウオの森～ | 森衛隊 | H16.10.4 | 那須塩原市 | 13 | 赤沼周辺での間伐等の森林整備活動 |
| 那須北岳遊々の森 | 那須高原自然学校 | H21.9.1 | 那須町 | 107 | 動植物や星の観察、森林整備の体験等 |
| 人とクマタカ共生の森 | NPO 法人オオタカ保護基金 | H24.11.30 | 那須塩原市 | 0.5 | 希少野生生物に配慮した森林づくりの実施 |
| 塩原クマタカの森 | NPO 法人オオタカ保護基金 | H25.5.7 | 那須塩原市 | 116 | 自然観察会を通じた希少野生生物に配慮した森林づくりの普及啓発 |



「人とクマタカ共生の森」での下刈活動



「那須野ヶ原オオタカの森」での野鳥観察会

2 森林・林業の普及啓発活動～森林環境教育等

塩那森林管理署では、国民の方々にもっと森林・林業に興味を持っていただき、さらには国有林の管理経営にも関心を持っていただきたいと考えています。このため、地域の小中学生や各種ボランティア団体等を対象とした林業の体験や森林環境教育の活動を地域の関係者と協力をしながら取り組んでいます。



塩原小中学校「命の授業」での森林教室



ボランティア団体による植樹体験

3 国有林の管理経営に関する情報等の発信

塩那森林管理署では、国有林を「国民の森林」として開かれた管理経営を目指しています。特に、国有林の管理経営は地域管理経営計画などの計画に基づいて行うこととされています。各種計画の策定の際にはあらかじめ公告・縦覧を行い、国民の皆さんや関係行政機関の意見を伺い、その意見を各計画に反映するよう努めています。

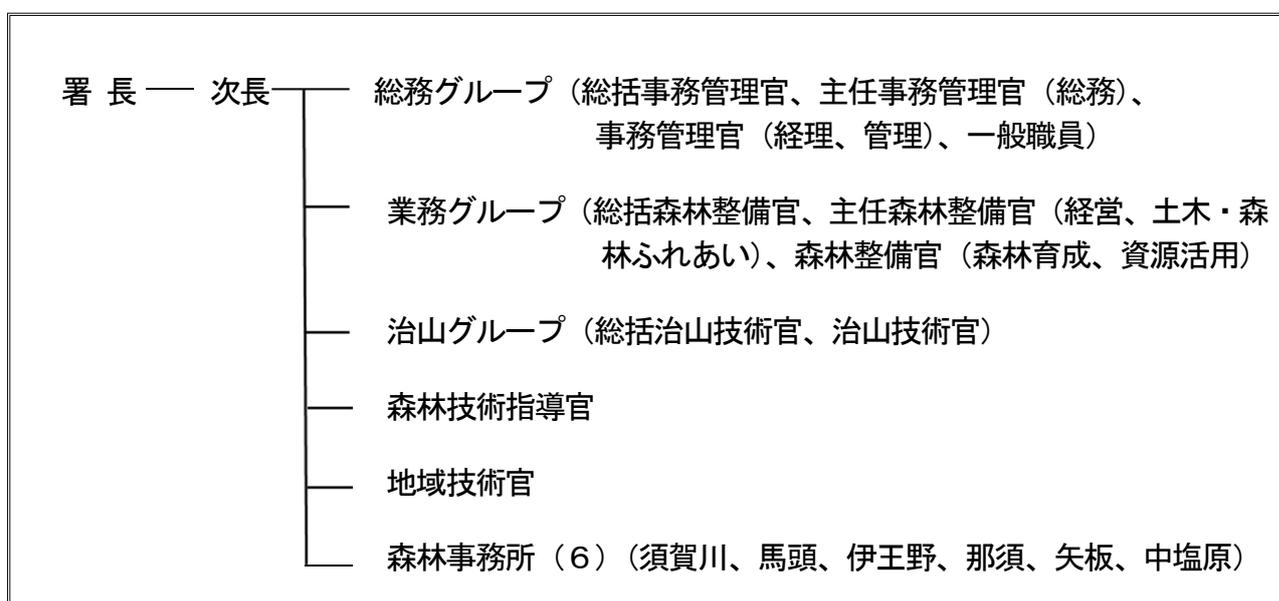
また、管内国有林の管理経営の状況について、ホームページをはじめとして様々な手段により発信していきます。

VI 平成 30 年度主要事業量（予定）

| 収穫量 (m ³) | | | 製品販売量 (m ³) | | | 立木販売量(m ³) |
|-----------------------|--------|--------|-------------------------|--------|--------|------------------------|
| 主伐 | 間伐 | 計 | 委託販売 | システム販売 | 計 | |
| 52,552 | 42,434 | 94,986 | 6,700 | 21,500 | 28,200 | 13,091 |

| 森林整備事業量 (ha) | | | | | | 林道事業 | 治山事業 |
|--------------|-----|-----|----|------|------|-------|------|
| 新植 | 下刈 | つる切 | 除伐 | 保育間伐 | 利用間伐 | 新設・改良 | 復旧治山 |
| 120 | 225 | 15 | 87 | 67 | 236 | 2 路線 | 2 箇所 |

VII 塩那森林管理署組織図



VIII 塩那森林管理署の沿革

| | |
|-----------------|-------------------------|
| 明治 22 年(1886 年) | 栃木大林区署大田原派出所として開設（初代庁舎） |
| 明治 23 年(1887 年) | 大田原小林区署に改称 |
| 大正 2 年(1913 年) | 新庁舎を新築（2 代目庁舎） |
| 大正 13 年(1924 年) | 東京営林局大田原営林署に改組 |
| 昭和 22 年(1947 年) | 林政統一により前橋営林局大田原営林署となる |
| 昭和 26 年(1951 年) | 宮内庁那須御用邸附属林の管理開始(委嘱) |
| 昭和 30 年(1955 年) | 新庁舎を新築（3 代目庁舎） |
| 平成 11 年(1999 年) | 塩那森林管理署に改組 |
| 平成 13 年(2001 年) | 矢板事務所（旧矢板営林署）を廃止し統合 |
| 平成 14 年(2002 年) | 新(現)庁舎を新築（4 代目庁舎） |

